

CITATION: Gartlehner G, Thaler K, Chapman A, Kaminski-Hartenthaler A, Berzaczy D, Van Noord MG, Helbich TH. Mammography in combination with breast ultrasonography versus mammography for breast cancer screening in women at average risk. *Cochrane Database of Systematic Reviews* Cochrane Breast Cancer Group, 2014 Issue 4; New Art. No.: CD009632 DOI: 10.1002/14651858.CD009632.pub2
CRG名: Cochrane Breast Cancer Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 01 February 12
Clib issue No.; N/U: 2014 Issue 4; New

アブストラクト

背景: 乳癌は世界中の女性で診断される頻度が最も多い悪性疾患である。マンモグラフィによるスクリーニングは、乳癌を早期段階で検出することができる。マンモグラフィスクリーニングの診断精度は主に、撮像された乳房の放射線学的密度に基づく。放射線学的密度が高い乳房では、脂肪性乳房よりも非石灰化乳癌が見逃される可能性が高い。その結果として、一部の癌はマンモグラフィスクリーニングで検出されない。乳癌のスクリーニングレジメンへの超音波検査の付加を支持する者は、それがスクリーニング手順の偽陰性率を下げるための安全かつ安価なアプローチである可能性を主張している。しかし、批評家らは平均的リスクの女性に対する補助的な超音波検査の実施も偽陽性結果率を増加させ、不要な生検や治療につながりかねないことを懸念している。

目的: 乳癌リスクが平均的な女性の乳癌スクリーニングでマンモグラフィと乳房超音波検査併用の相対的な有効性および安全性をマンモグラフィと比較評価すること。

検索戦略: Cochrane Breast Cancer Group's Specialised Register、MEDLINE (via OvidSP)およびEMBASEを2012年2月まで検索した。

進行中または未発表の研究を見出すため、世界保健機関(WHO)のInternational Clinical Trials Registry Platform(ICTRP)、ClinicalTrials.gov、National Cancer Instituteの臨床試験データベースを2012年6月まで検索した。さらに、以下の情報源を用いて、灰色文献検索も実施した: OpenGrey; National Institute of Health RePORTER; Health Services Research Projects in Progress (HSRPROJ); Hayes, Inc. Health Technology Assessment; The New York Academy of Medicine's Grey Literature Index and Conference Papers Index。

選択基準: 有効性に関しては、個別またはクラスターランダム化のいずれかによるランダム化比較試験(RCT)、およびバイアスリスクが低く、サンプル・サイズが500例以上の前向き非ランダム化比較研究を検討した。

有効性に関して適格な試験に加え、有害性を評価するため、バイアスリスクが低く、サンプル・サイズが500例以上の非ランダム化比較研究も検討した。

対象となった母集団は、乳癌リスクが平均的な40?75歳の女性であった。

データ収集と分析: 2名のレビューアが選択基準に照らして出版物の抄録および全文をスクリーニングした。選択基準を満たした研究はなかった。

主な結果: レビューでは、乳癌リスクが平均的な女性に対するスクリーニングでの補助的な超音波検査の使用に関する比較研究は見いだせなかった。1件の進行中のランダム化比較試験(J-START、日本)が特定された。

レビューアの結論:現時点で、乳癌リスクが平均的な女性の補助的なスクリーニング手段としての超音波検査のルーチンな使用を正当化する、方法論的に健全なエビデンスは利用できない。

平易な要約(Plain language summary)

乳癌リスクが平均的な女性の乳癌スクリーニングにおけるマンモグラフィおよび後続の超音波検査とマンモグラフィ単独との比較

世界的に見て、乳癌は女性で最も多く見られる悪性疾患です。エビデンスは、50?70歳の健康な女性に対するマンモグラフィが乳癌を早期に発見し、乳癌による死亡リスクを減らせることを示しています。しかし、マンモグラフィは乳癌発見の完璧な手段ではなく、一部の女性、特に実質性乳房を有する女性では腫瘍が見逃されることがあります。実質性乳房の女性では、マンモグラムで正常な乳房組織と腫瘍を区別することが困難です。そのため、このような女性のマンモグラフィスクリーニングに超音波スクリーニングを追加すれば、マンモグラフィのみでは見逃される腫瘍を発見できると考える支持者もいます。また、これによって腫瘍の偽陽性率が増加し、生検数および不要な治療が増えると考えられる者もいます。

特に実質性乳房ではなく、マンモグラフィが正常な女性の場合、追加検査としての超音波の利益は不明です。本レビューでは、乳癌リスクが平均的な女性のマンモグラムへの超音波検査スクリーニング追加の是非に関するエビデンスを調べることを目指しました。スクリーニングによる腫瘍検出の増加は必ずしも命が救われる女性が増えることを意味しないため、スクリーニングのプラス面とマイナス面を比較検討することが重要です。超音波検査で追加的に発見される少数の癌が乳癌による実際の死亡率低下につながるかどうかを評価した後、利益があった場合には、多くの女性が誤った警告や診断を受けることから生じる有害性と比較する必要があります。

我々のレビューの疑問に取り組んだ試験は見出せませんでした。現在、日本で(J-STARTと呼ばれる)1件のランダム化比較試験が実施されています。マンモグラフィが正常な女性に対する超音波検査で乳癌による死亡リスクを減らすことができるかどうかは不明であるため、それを日常的に使用すべきではありません。超音波検査によるスクリーニングを実施する場合は、超音波スクリーニング検査で結果が陽性の女性が直面する死亡率および有害性に対する追加的なスクリーニングの効果を調べるためにデザインされた臨床試験の一部とすべきです。

(監訳 曾根 正好)

翻訳公開日: 2015年 6月24日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、2013年6月からコクラン・ライブラリーのNew review, Updated reviewとも日単位で更新されています。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、タイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。